



コマツ産機株式会社

港湾工場から世界へ 課題解決への寄与も徹底

代表取締役社長 北出 安志 氏

湾岸の立地を活かし、 大型マシンが 海へと乗り出していく

金沢港の畔に構えられたコマツ（株式会社小松製作所）の金沢工場。湾岸にあるゆえの利便性を活かし、大物の製品が船で出荷されていく。工場に隣接した埠頭の上屋では、2か月の船旅に耐えるための防錆作業と梱包が行われている。

金沢工場は、マイニング油圧ショベルと大型プレスの筐体塗装・組み立て・ユニット品確（品質確認）までの工程を担う。扱う製品は大物ばかりで、常に安全作業への意識が欠かせない。機械加工のエリアの温度は常に一定。移動の際は扉とカーテンがすべて開き、耐荷重100tの

クレーンで動かすというほど、大きく重量のある製品ばかりである。

コマツブランドのプレス機械の歴史は古く、1921年の創立から3年後には建材向けの水圧プレスを製造している。このような大型プレスから始まり、小型プレスにもラインナップを広げていった。1994年にはプレス・板金部門が分社化し、100%子会社のコマツ産機株式会社が誕生した。分社化当時は営業、サービス部門のみだったが、現在では、開発と営業、サービスをコマツ産機が、製造は親会社のコマツが担っている。

コマツの産機事業では幾多もの革新的なプレス機械の発明があり、コマツ産機として分社化後の1998年には小型サーボプレスを世界に先駆けて実用化した。

現社長の北出氏も元エンジニアで、小型サーボプレスを開発した一人だ。現場に出たいという思いがあったが、設計で修行を積みながらエンジニアの腕を磨き、見事に飛躍した。

幅広い製品展開で ニーズに応える

プレス機と板金機械の両方を製品展開している同社だが、サーボプレスの分野では1990年代の黎明期から、2軸の直動ボールねじ式プレスや、回転式の80tプレスを共同開発で次々と世に送り出してきた。サーボプレスの実用化以降大型化にも取り組んでおり、サーボプレスの大きな特長のひとつある電力回生（減速



TWCL: 水中ファイバーレーザー切断機



H1F200: 小型プレス



大型サーボタンデム

時に発電し、エネルギーを再利用する技術）も2400tonクラスまで実用化した。現在ではその開発力を活かして大型から小型のフルラインナップを製造し、幅広い需要に応えている。

また、板金の分野ではプレスブレイキやファイバーレーザー及びプラズマ加工機、溶接ロボットと多岐にわたる製品を展開している。2023年2月に発表した水中切断ファイバーレーザー加工機TWCL10/08-1は、水中でレーザー切断をすることで、カバーレスでの安全なレーザー切断を実現した。水中で加工することで、安全性の確保だけでなく加工中の温度が低下し歪みもなく煙も少ないという高性能化が期待できる製品だ。

「止まらない」機械が 顧客満足を高める

同社では「機械を止めない」のポリシーを持ち、顧客の機械メンテナンスを徹底的に行うだけでなく直近数年ではICTとDXを活用した予知保全にも力を入れている。これは人工知能を使いながら機械点検をプログラム化するシステムであり、一部の大型プレスに搭載している。また、中小型プレスや板金機械向けには生産をサポートするためのシステム（Komtrax）も国内では現在1000台以上もの機械に装備されている。コマツ産機は経済産業省のDX認定を取得し、ICTの活用を推進していく姿勢を見せる。

また、プレスの安定稼働に寄与するために、ユーザーとの交流会の開催や定期メンテナンスを実施するなど、アフターサービスを重視している。そのため社員のうち半数以上がサービス業に携わる業務に就いている。「大前提は、機械が故障などで止まってしまうように日頃からメンテナンスをすることです。もし機械が止まったとしても、長時間停止する事態を避け早く直す。そのようなシステムや体制を構築して安定稼働をしっかりとサポートしていきたいです」と北出氏は意気込む。国内プレス機メーカーの“老舗”ともいえるコマツブランドはこれからどのようなプレス機を生み出すのか。今後の新製品も見逃せない。

会社概要
Company Profile



- ◆会社名 コマツ産機株式会社
- ◆所在地 〒920-0225 石川県金沢市大野町新町1番地1
- ◆TEL 076-293-4201
- ◆FAX 076-293-4351
- ◆URL <https://sanki.komatsu/>